

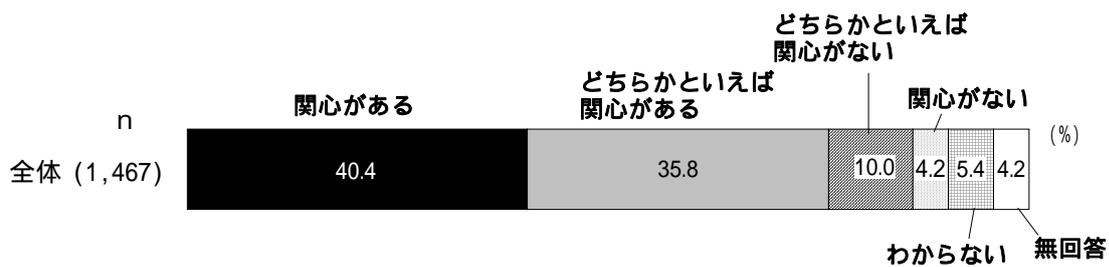
9 食育の推進について

(1) 「食育」の関心度

『関心をもっている人』が7割台半ば

問37 県では、県民一人ひとりが子どもの頃から、「食」に関する知識と何をどれくらい食べたらいかなど「食」を選択する力を身に付けて健全な食生活を送るため、食育の推進に取り組んでいます。あなたは「食育」に関心がありますか。(は1つ)

<図表9 - 1> 「食育」の関心度



「食育」の関心度を聞いたところ、「関心がある」(40.4%)が4割で最も多く、「どちらかといえば関心がある」(35.8%)を合わせると、『関心をもっている人』(76.2%)は7割台半ばとなっている。逆に、「どちらかといえば関心がない」(10.0%)と「関心がない」(4.2%)を合わせて、『関心をもっていない人』(14.2%)は1割台半ばである。(図表9 - 1)

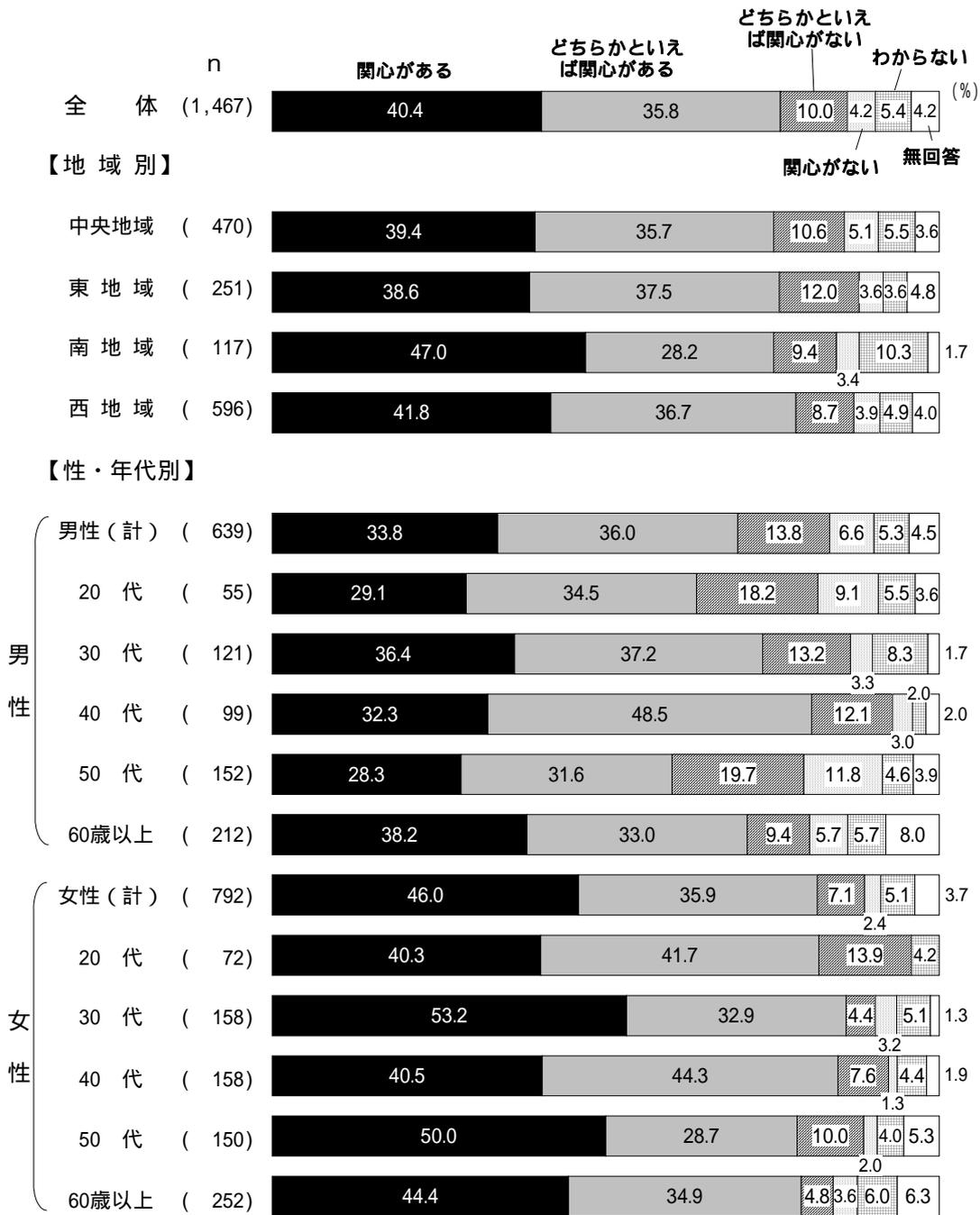
【地域別】

「関心がある」は“南地域”(47.0%)が約5割で他の地域に比べて最も高くなっている。しかし、『関心をもっている人』としてみると、いずれの地域も7割台半ばでほぼ並ぶ。(図表9 - 2)

【性・年代別】

関心度は全般的に女性の方が男性よりも高く、特に、「関心がある」は女性の30代(53.2%)と50代(50.0%)で5割以上となっている。『関心をもっている人』としてみた場合、男性では40代(80.8%)で、女性では20~40代及び女性(計)でも8割を超える。一方、男性(計)では、約7割である。(図表9 - 2)

<図表9 - 2> 「食育」の関心度 / 地域別、性・年代別



(1 - 1) 「食育」に関心があると思う理由

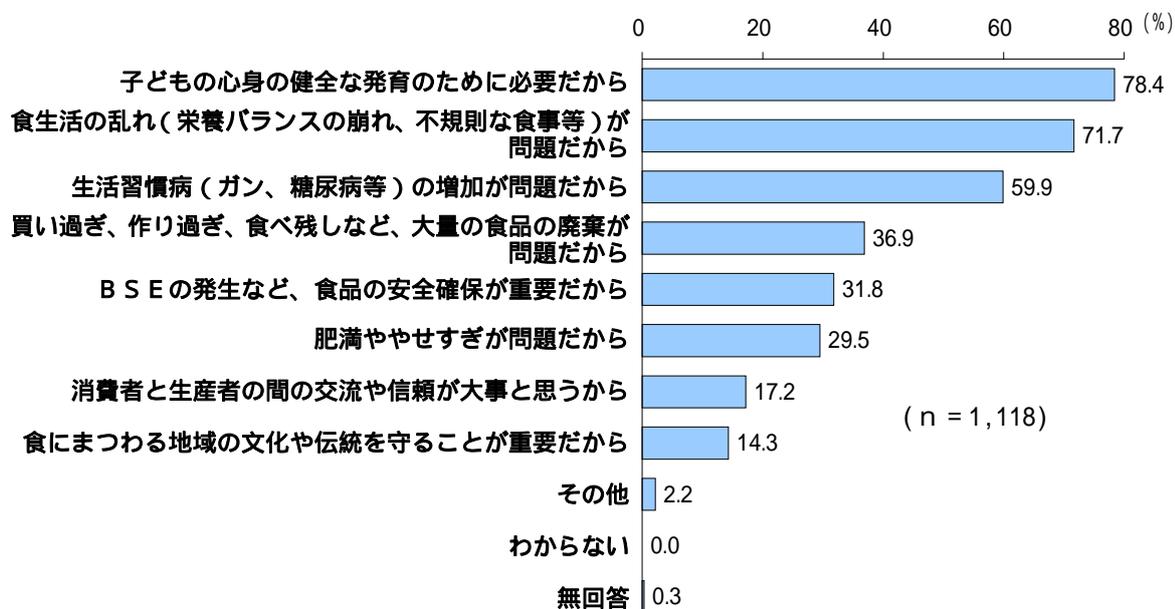
「子どもの心身の健全な発育のために必要だから」が約 8 割

(問37で「1」か「2」とお答えの方に)

問37 - 1 あなたが「食育」に関心があると思う理由について、お聞かせください。

(はいくつでも)

< 図表 9 - 3 > 「食育」に関心があると思う理由 (複数回答)



問 37 で「関心がある」か「どちらかといえば関心がある」と回答した 1,118 人を対象に、その理由をいくつでも選んでもらったところ、「子どもの心身の健全な発育のために必要だから」(78.4%)が約 8 割で最も高く、次いで、「食生活の乱れが問題だから」(71.7%)が 7 割を超える。また、「生活習慣病の増加が問題だから」(59.9%)が約 6 割である。(図表 9 - 3)

【地域別】

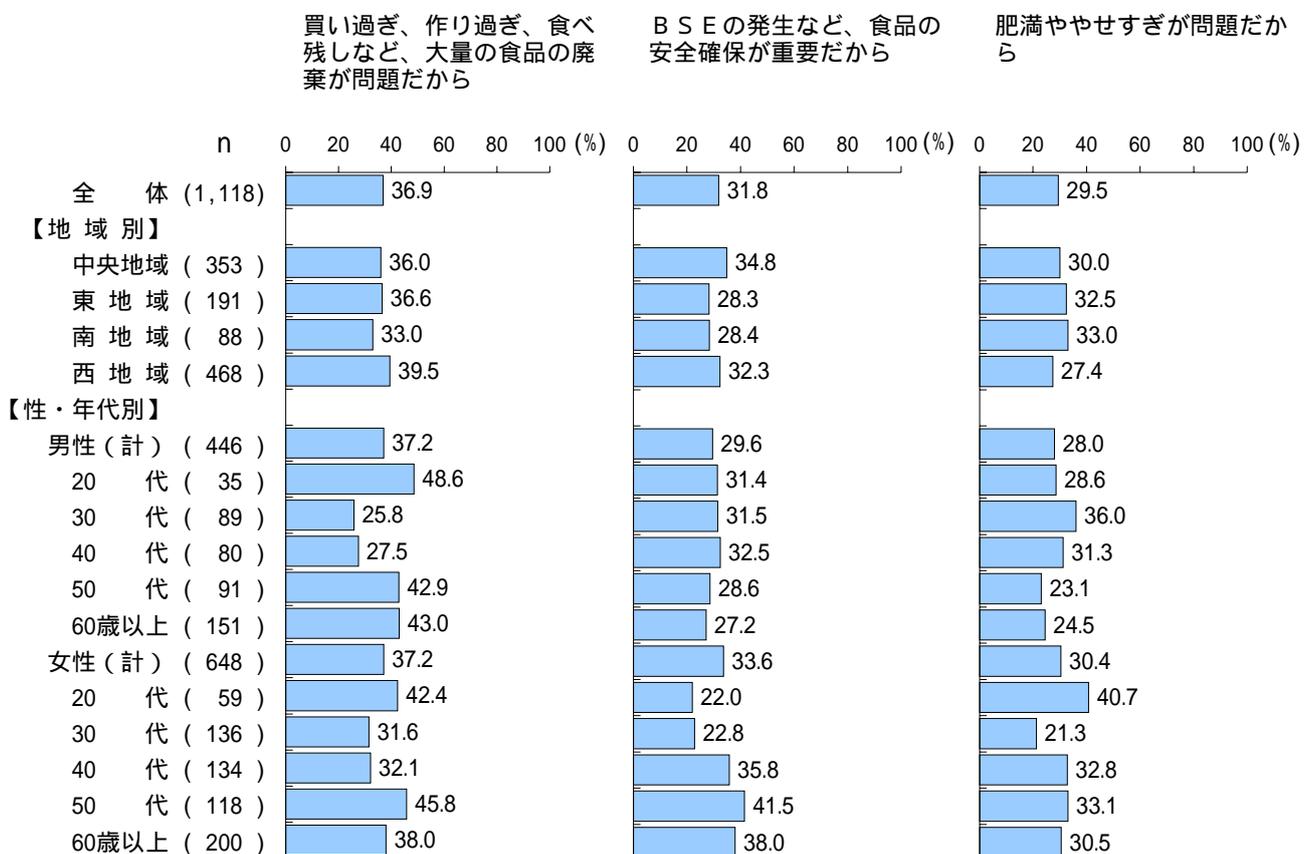
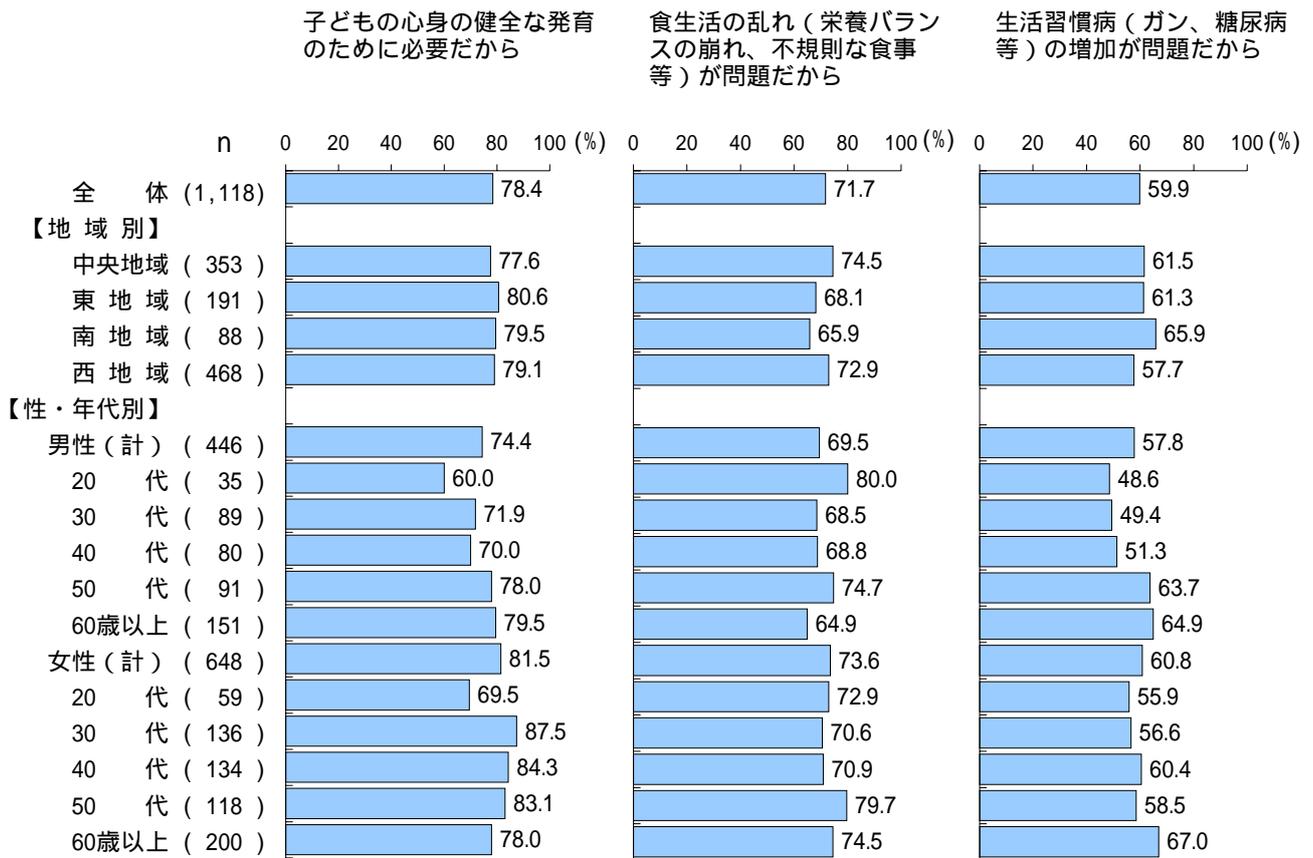
上位 6 項目の順位について、地域による大きな違いはみられなかった。

「食生活の乱れが問題だから」は、「中央地域」(74.5%)と「西地域」(72.9%)が 7 割を超え比較的高くなっている。「生活習慣病の増加が問題だから」は、「南地域」(65.9%)が 6 割台半ばで他の地域に比べて最も高い。「BSEの発生など、食品の安全確保が重要だから」は、「中央地域」(34.8%)と「西地域」(32.3%)で 3 割を超え他の地域に比べ高くなっている。(図表 9 - 4)

【性・年代別】

「子どもの心身の健全な発育のために必要だから」は、男女ともに 20 代で低く、男性ではおおむね年代が上がるほど増加する一方で、女性では 30 代(87.5%)をピークにそれ以降年代が上がるほど減少している。「食生活の乱れが問題だから」は、男性の 20 代(80.0%)と女性の 50 代(79.7%)で 8 割前後となっている。また、「生活習慣病の増加が問題だから」は、男性の 50 歳以上と女性の 60 歳以上(67.0%)で 6 割台半ばである。このほか、「買い過ぎ、作り過ぎ、食べ残し等、大量の食品の廃棄が問題だから」は、男性の 20 代(48.6%)が約 5 割、女性の 50 代(45.8%)が 4 割台半ばで、「BSEの発生など、食品の安全確保が重要だから」は、女性の 40 歳以上が 3 割台半ばで、「肥満ややせすぎが問題だから」は、男性では 30 代(36.0%)が最も高く、女性では 20 代(40.7%)で 4 割となっている。(図表 9 - 4)

<図表9 - 4> 「食育」に関心があると思う理由／地域別、性・年代別（上位6項目）

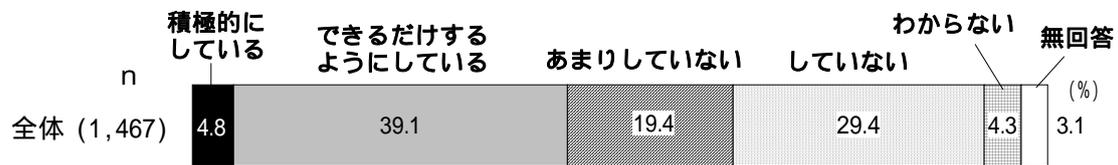


(2) 食育に関する活動や行動

活動や行動を『している』は4割台半ば。一方、『していない』は約5割

問38 あなたは、食育に関する活動や行動をしていますか。(は1つ)

<図表9 - 5> 食育に関する活動や行動



食育に関する活動や行動を聞いたところ、「積極的にしている」(4.8%)は少数ながら、「できるだけするようにしている」(39.1%)が最も多く、これらを合わせると、『している』(43.9%)は4割台半ばとなっている。逆に、「あまりしていない」(19.4%)と「していない」(29.4%)を合わせて、『していない』(48.8%)は約5割である。(図表9 - 5)

【地域別】

全体として、地域による大きな違いはみられないものの、『している』が“西地域”(41.9%)で他の地域に比べて低い。そのため、この地域は、『していない』(50.1%)が5割で、他の地域に比べて高くなっている。(図表9 - 6)

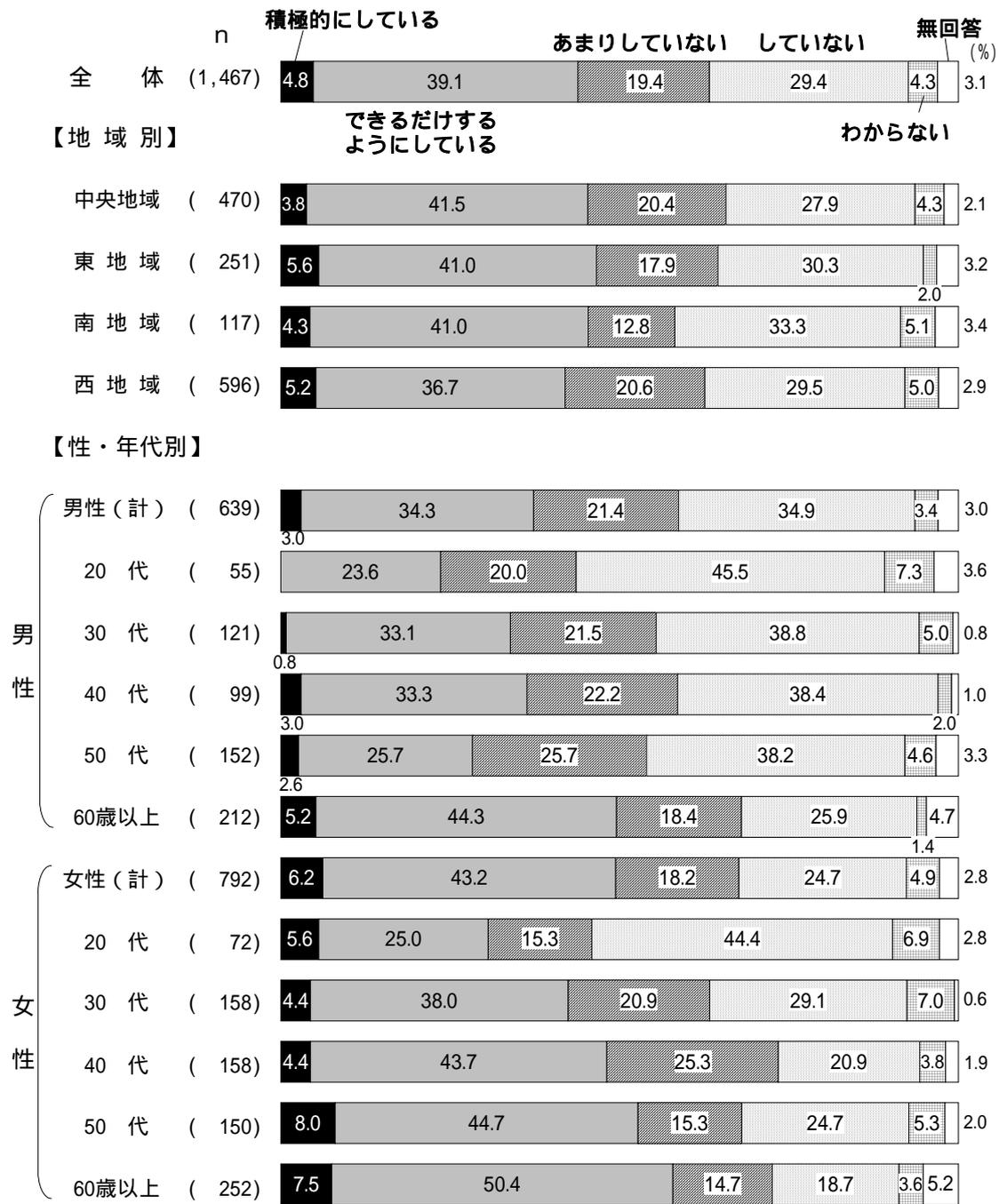
【性・年代別】

『している』は、男性(計)(37.3%)が約4割に対して、女性(計)(49.4%)では約5割で性別による大きな違いがみられた。

男性では、『している』は、20代(23.6%)が最も低く、60歳以上(49.5%)が約5割で最も高くなっている。逆に、『していない』が20~50代で6割を超えている。

一方、女性では、『している』は、20代(30.6%)が最も低く、年代が上がるほど増加し、50歳以上で5割を超える。『していない』は20代(59.7%)で約6割である。(図表9 - 6)

<図表9 - 6> 食育に関する活動や行動 / 地域別、性・年代別



(3) 食生活上の指針等を参考にする程度

『参考にしている』と「ほとんど参考にしていない」がほぼ同じで約4割

問39 食生活上の指針として国が策定した、1日にとる食事の望ましい組み合わせやおおよその量をイラストで示した「食事バランスガイド」や何をどれだけ、どのように食べたらいいかの実践目標を示した「食生活指針」、エネルギー及び各栄養素の摂取量の基準を示す「日本人の食事摂取基準」等があります。あなたは、食生活を送るうえでこれらの指針等の何かを参考にしていますか。(は1つ)

<図表9 - 7> 食生活上の指針等を参考にする程度



食生活上の指針等を参考にする程度を聞いたところ、「いつも参考にしている」(5.8%)は少数ながら、「ときどき参考にしている」(31.2%)が3割を超え、これらを合わせると『参考にしている』(37.0%)は約4割となっている。しかしながら、「ほとんど参考にしていない」(37.7%)も約4割で多く、「食生活上の指針を知らない」(21.9%)との回答も2割を超え、これらを合わせると『参考にしていない』(59.6%)は約6割である。(図表9 - 7)

【地域別】

『参考にしている』は“南地域”(40.2%)で4割と、他の地域に比べて最も高くなっている。(図表9 - 8)

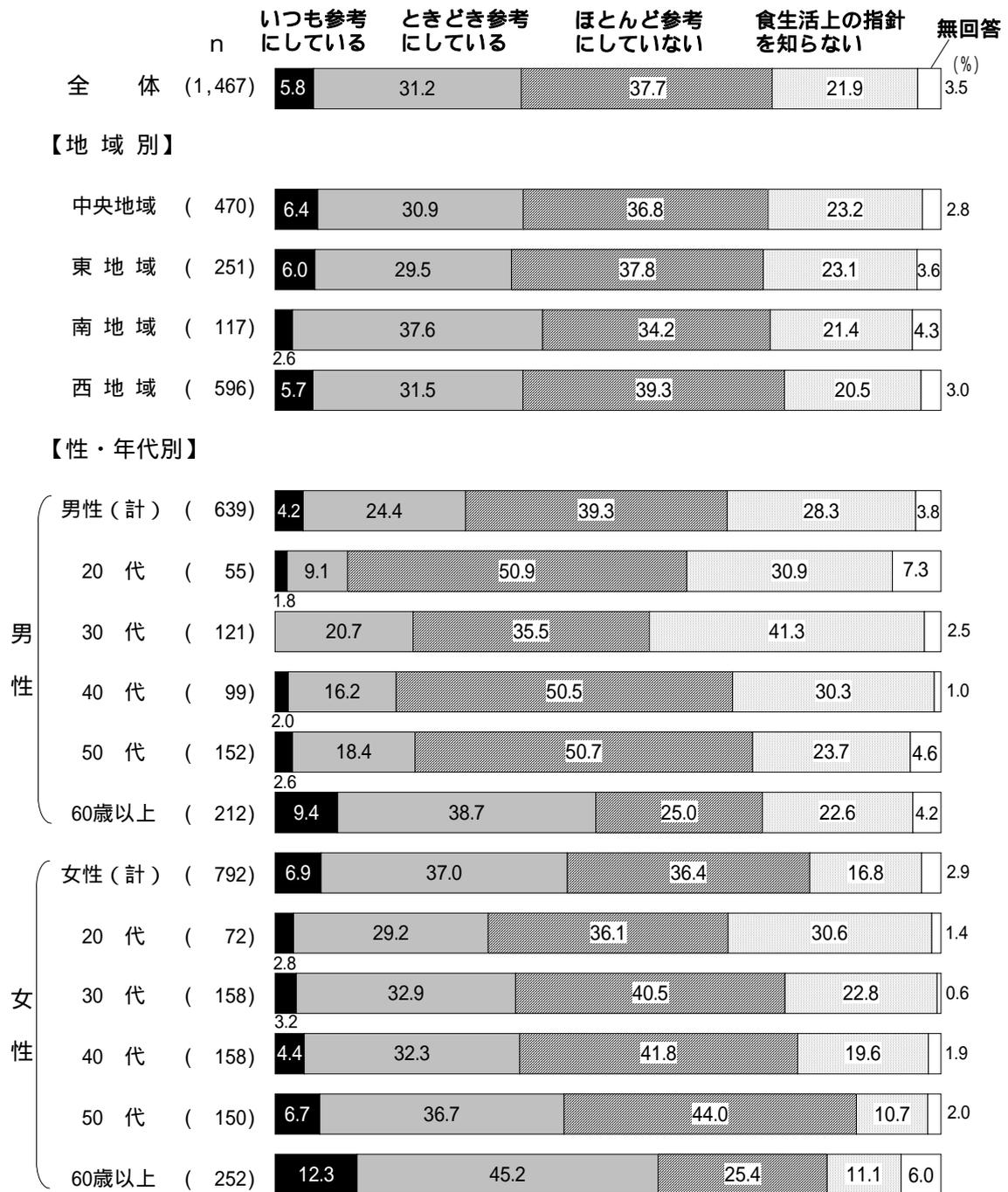
【性・年代別】

『参考にしている』は、男性(計)(28.6%)が約3割に対して、女性(計)(43.9%)では4割台半ばと性別による大きな違いがみられた。また、「食生活上の指針を知らない」は、男性(計)(28.3%)が約3割に対して、女性(計)(16.8%)では1割台半ばと大きな違いがみられた。

男性では、『参考にしている』は20代(10.9%)で1割、30~50代で2割前後と低くなっているが、60歳以上(48.1%)では約5割となっている。「ほとんど参考にしていない」は、20代(50.9%)と40~50代で5割、また、「食生活上の指針を知らない」は30代(41.3%)で4割を超えている。

一方、女性では、『参考にしている』は年代が上がるほど増加して60歳以上(57.5%)で約6割となる。「ほとんど参考にしていない」が30~50代で4割台となっている一方で、20代は「食生活上の指針を知らない」(30.6%)が3割となっている。(図表9 - 8)

< 図表 9 - 8 > 食生活上の指針等を参考にする程度 / 地域別、性・年代別

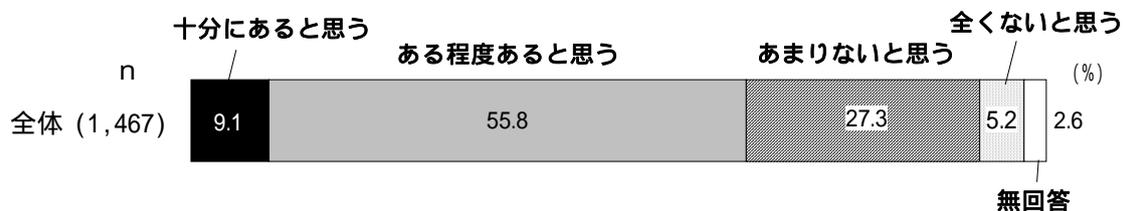


(4) 健康に悪影響を与えない食品選択や調理の知識

『あると思う』が6割台半ば

問40 あなたは、健康に悪影響を与えないようにするために、どのような食品を選んだ方が良いかや、どのような調理が必要かについての知識があると思いますか。(は1つ)

<図表9 - 9> 健康に悪影響を与えない食品選択や調理の知識



健康に悪影響を与えない食品選択や調理の知識を聞いたところ、「十分にあると思う」(9.1%)は約1割で、「ある程度あると思う」(55.8%)は5割台半ばで最も多くなっている。これらを合わせると、『あると思う』(64.9%)は6割台半ばとなっている。一方、「あまりないと思う」(27.3%)と「全くないと思う」(5.2%)を合わせて、『ないと思う』(32.5%)は3割を超える。(図表9 - 9)

【地域別】

『あると思う』は“西地域”(67.3%)が約7割で他の地域に比べて最も高い。(図表9 - 10)

【性・年代別】

『あると思う』は、男性(計)(56.3%)が5割半ばに対して、女性(計)(72.1%)では7割を超え性別による大きな違いがみられた。

『あると思う』は、男女ともに年代が上がるほど増加しており、男性の60歳以上(69.3%)で約7割、女性の50代(77.3%)と女性の60歳以上(81.8%)で8割前後となる。(図表9 - 10)

<図表9 - 10> 健康に悪影響を与えない食品選択や調理の知識 / 地域別、性・年代別

